

IBM辛くも完封勝利



X League
X League
NEWS 2006.05.01

発行：エムアイプランニング
監修：日本社会人アメリカンフットボール協会



2006年04月30日 (川崎球場)

IBM BigBlue
1Q:6 2Q:0 3Q:8 4Q:0 ⇒14

東京ガスクリエイターズ
1Q:0 2Q:0 3Q:0 4Q:0 ⇒0

PEARL BOWL TOURNAMENT

【IBM-東京ガス】3Q5分、タッチダウンを決めTFP時にIBM・高木(左)が相手ディフェンスをかわしツーポイントコンバージョンを決める
=川崎球場(エムアイプランニング・大賀章好)

東京ガスディフェンス陣が奮闘、IBMが辛勝

【評】X2リーグ時代からお互いに切磋琢磨し合ってきた両チームの対戦。試合は、東京ガスディフェンス陣が頑張り、インターセプトやファンブルリターンなどで、IBMオフェンス陣に主導権を握らせない展開。一方で、東京ガスオフェンス陣もチャンスに恵られない。先取点は1Q8分55秒、IBM・QB石川(#13)からWR天谷(#44)への22ヤードのTDパス。その後、試合は膠着。前半を6-0で折り返す。後半、IBM・QB岡村(#15)からのショットガン攻撃も、オフェンス陣のミスが相次ぎなかなか得点には繋がらない。追加点は、3Q5分18秒のIBM・RB高木(#1)のランプレイのみ。結果は14-0でIBMが辛勝。両チーム共に攻撃に関して課題の浮き出た試合。シーズン初頭でまだまだ仕上がりの遅れているチームの多いこの時期だけに、今後の試合ではアップセットに期待したい。

富士通初戦を快勝

富士通が攻守に圧倒

パールボウルトーナメントAブロック第1戦。藤田ヘッドコーチになり2シーズン目の富士通フロンティアーズ。対するは今年からクラブチーム化し初陣を飾りたい松岡ヘッドコーチ率いるROCBULL。ゲームは、開始早々からお互いボールが手に付かないスタートとなる。1Q開始の富士通キックオフをROCBULL・滝田（#33）がリターン中にタックルを受けファンブル。富士通が敵陣11ヤード地点でリカバー。いきなり富士通に得点のチャンスとなる。しかし、続く富士通オフェンスのファーストプレーでも、QB・月野（#16）からパスを受けたWR・清水（#86）がROCBULLディフェンス陣のの激しいタックルでファンブル。これをROCBULL#13吹がリカバーし29ヤードまでリターン。開始早々2回のプレーで、2ターンオーバーと落ち着かない展開で始まった。先取点を得たのは富士通。DB・植木（#26）がROCBULL・QB吉田（#8）のパスをインターセプトすると、そのシリーズをK長谷（#17）のFGに結びつけ3-0とする。2Qに入ってから、オフェンスのミスで調子が上がらないROCBULLとは対照的に、富士通は2本のインターセプト、セーフティーなど、ディフェンスからオフェンスを連携させた得点を重ね、前半を25-0で折り返す。



2006年04月30日（川崎球場）

富士通フロンティアーズ

1Q:0 2Q:25 3Q:20 4Q:0 = 45

ROCBULL

1Q:0 2Q:0 3Q:0 4Q:0 = 0

【富士通-ROCBULL】3Q11分、富士通・大矢(左)が走り込みタッチダウン、TFPも決まり45-0とする㊦

3Q8分、ROCBULL・清水(中央)が攻め込みファーストダウンを獲得する

=川崎球場(エムアイプランニング・嶋口雄治)㊦



後半、得点のきっかけを作りたいROCBULL。RB清水（#35）、滝田（#33）、WR川崎（#15）を中心にオフェンスを仕掛けるが、敵陣深く攻めきれず、エンドゾーンには至らない。一方、3Qの富士通は6回のオフェンスシリーズのうち、3シリーズで得点を挙げ20点を追加し45-0。4Q、何としてもTDが欲しいROCBULLは、ディフェンス陣が粘って富士通のRBのファンブルを誘い、ゴール前1ヤードで押さえ自陣1ヤードから最後の反撃に臨む。QB吉田は12回のプレーで42ヤードを進めるが、この先に続けることが出来ず試合終了。得点、ファーストダウン数、獲得ヤードで大幅に上回った富士通が、春の初戦を勝ち取った。